

本校の研究概要の説明

研究の取組概要

- 1 研究テーマ
- 2 研究テーマ設定の理由
- 3 研究の柱
 - (1)指導と評価の一体化
 - ①指導案の改善
 - ②評価シートの改善
 - (2)育てたい資質・能力の明確化
- 4 取組の実際
 - (1)Plan
 - (2)Do
 - (3)Check
 - (4)Action
- 5 成果と課題
- 6 次年度に向けて

1 研究テーマ

「豊かな学びを育む授業づくり」

～一人一人の育てたい資質・能力の育成につながる
目標・評価の工夫による授業の改善～

2 研究テーマ設定の理由

生きる力の育成

確かな学力

豊かな心

健やかな体

学校教育目標

児童生徒一人一人が地域や学校で持てる力を精一杯発揮して、主体的な生活を積み重ね、自立や社会参加につながる「生きる力」を育成する。

豊かな学び

授業づくり

指導と評価の一体化

育てたい資質・能力の整理

教育課程の改善

2 テーマ設定の理由

H27年度の実施では・・・

曖昧な目標設定

評価の不明確さ



みんなが
わかりやすい
授業とは

授業の中で何を身につけて
ほしいかを明らかにして、
評価規準を具体的に示し、
目標と評価を一体化しよう！



授業づくりのポイントを
UDの視点から整理して
授業を計画しよう！

観点別評価

* 2つの柱に基づいた取組

学びのUD化

2 テーマ設定の理由

H27年度の実組成果と課題

観点別評価

- 4観点を踏まえて具体的な指導目標や内容を検討することで、より適切な目標や評価規準を設定し、授業展開をするようになった。
- ▲単元(題材)全体を通して4観点をどのように指導計画に位置付け、個別の目標や評価基準をどのように設定するか。また、それを反映した指導案の様式の改善が必要。

学びのUD化

- 授業づくりの事前チェックを共通シートで行うことで、学びのUD化のベースが整った。
- ▲個への配慮と全体的なUDの視点の整理及び取組の成果の集約や共有

2 テーマ設定の理由

H28年度の研究テーマ

「豊かな学びを育む授業づくり」

～一人一人の育てたい資質・能力の育成につながる目標・評価の工夫による授業の改善～

続！観点別評価

NEW！

指導案&評価シート

育てたい資質・能力

豊かな学び

授業づくり
パワーアップ！

指導と評価の
一体化で
授業改善！

授業
の
充
実

授業の
検証方法を
さらに
充実させる！



3 研究の柱

H28年度の実施の柱

(1) 指導と評価の一体化

①指導案の改善

②評価シートの改善

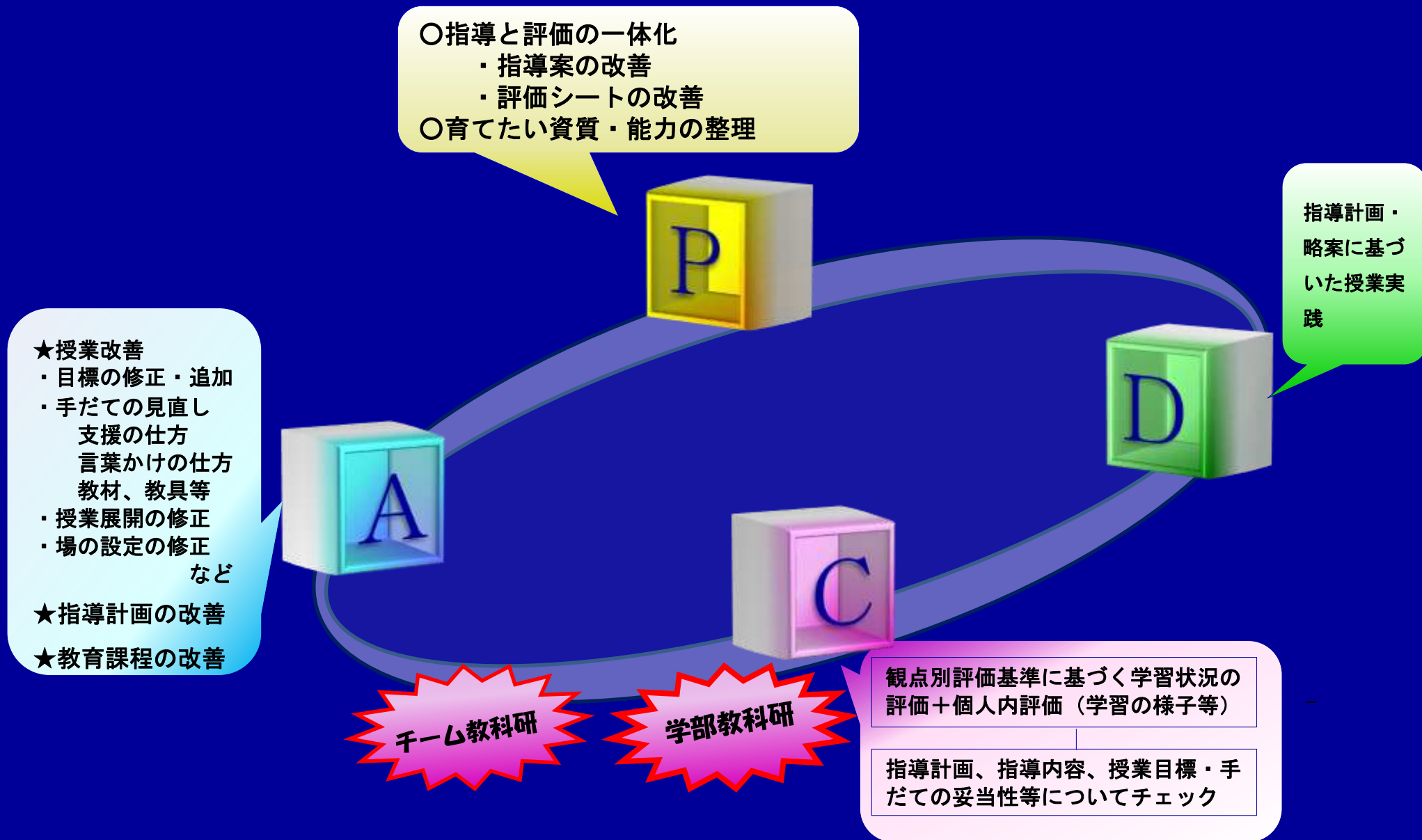
- * どんな力を身につけてほしいのか
- * 身についた力をどう活かすのか
- * 評価を授業改善や子どもの指導・支援にどう活かすのか



(2) 育てたい資質・能力の明確化

学校教育目標をふまえた「育てたい資質・能力」の
検討及び整理

4 取組の実際



4 取組の実際



- ・ 指導案の改善
→「学びを今や将来の生活で実践する」視点での単元（題材）目標を立てた指導計画。4 観点を単元（題材）の指導計画の中で網羅する計画
評価基準を明記
- ・ 評価シートの改善
→単元（題材）終了後、観点別評価や学習の様子、授業改善を記入
- ・ 育てたい資質能力の整理
→教務部と整理



- ・ 年間指導計画、題材の指導計画、指導案（毎時の略案）をもとに授業実践



- ・ 授業後、評価（◎○△）と子どもの様子や変容についての気付きを記入
- ・ 月に1回の学部教科研、チーム教科研において、職員相互で授業評価



- ・ 毎時間の授業後の評価、単元（題材）終了後の評価をもとに、授業改善、指導・支援改善、指導計画の修正等

★単元（題材）の目標に「学びを今や将来の生活で実践する」視点を記入。

★4 観点を単元（題材）の指導計画の中に適切に配置する。

★評価基準をB基準で明記し、授業後、略案に評価(◎○△)と子どもの様子や変容についての気付きを記入。

※細案は個別に4つの観点にそって目標・評価を設定

○学部 ○○科 指導案「○○○○」
 日時：平成 年 月 日 () ○○:○○~○○:○○
 場所：○○○○○
 児童(生徒)：○○人(1年 人 2年 人 …)
 授業者：○○○○(T1) ○○○○(T2)

1 単元(題材)名

単元(題材)における目標

学びを今や将来の生活で実践する目標

活動や学習とつながりがあるのかを記入。

思考・判断・表現	
技能	
知識・理解	

○学習指導要領における各教科の観点と段階
 <例>理科「人体」段階(1) ○○○○○○○○○○○○○○

学習内容にかかわる観点について
 ○を記入する。

3 単元(題材)の指導計画

主な学習内容		関	思	技	知	時間	備考
○活動内容(○○つくりをする、○○で遊ぶなど) ・具体的な内容を記述(△△△△△△など)		○			○	1	
			○	○		2	※本時 1/2)

4 本時について
 (1) 目標及び評価基準・評価

観点	目標及び評価基準	場面

本時において、観点別の目標及び評価基準(○：ほぼ達成できた)を具体的に記述する。

児童生徒名	○	備考
A	◎	

本時の目標の観点(関・思・技・知)を記入する。
 複数ある場合は欄を増やす。

児童生徒名	○	備考

備考は必要な場合のみ記入する。

◎：十分達成できた ○：ほぼ達成できた △：達成できなかった

(2) 展開

時刻	学習活動	手だて及び指導上の留意点	備考
○○:○○	1 ○○○○○○○○○○○○○○ 目標(児童生徒に示す目標を記入)	・○○○○○○○○○○○○○○○	準備物 など
○○:○○	2 ○○○○○○○○○○○○○○ (子どもが主語) (例) ・目標を知る(考える)。 ・目標について振り返る(自己評価する) ・グループ、ペア学習をする	・○○○○○○○○○○○○○○○ (教師が主語) ～できるよう、・・・する。 または ・・・して、～できるようにする。	

★題材の目標に6区分26項目の
関連性を明記
【人2】 【コ1】 など

○学部 自立活動 指導案「○○○○」

日時：平成 年 月 日（ ） ○○：○○～○○：○○
場所：○○○○
児童（生徒）：○○人（1年 人 2年 人 …）
授業者：○○○○（T1）、○○○○（T2）

**1 題材名
「○○○○」**

目標は、自立活動目標設定シートを参考に、自立活動の内容から必要な項目を選定し、それらを用いて表現することとする。

2 題材の目標

- ・注目すべきものや人に注意を向ける。【コ1】【人1】
- ・日常生活の様々な場面における適切な対応の仕方（相手を見る、相手に体を向ける、伝わるように伝える、相手の気持ちを知る、無視をしないなど）を知り、自分にできる方法（言葉、手話、身振り、会釈など）でロールプレイをする。【人1】【人2】【コ1】【コ2】【コ4】【コ5】

3 題材の指導計画

主な学習内容・活動		項 目	時	備 考
①まねっこゲームをする（注目） ・教師に注目し、教師の動きの真似をする。	②設定された場面における適切な対応の仕方を知り、自分にできる方法でロールプレイをする。 ・あいさつ（おはよう、さようなら、ありがとう）	入1・2 コ1・ 2・ 4・5	4	本時 1 / 4
	・入室の仕方			
	・物の貸し借り			
	・割り込み（順番を守る）			

4 本時について

(1) 目標および評価規準

氏名	目標および評価規準	場面	評価	備考
A	教師の声かけを聞いて、指示を出す教師に注目し、動きを真似る。			
B				
C				

②登下校時のあいさつや、お礼を伝える場面での適切な対応の仕方を知り、自分にできる方法で伝える。

氏名	目標および評価規準	場面	評価	備考
A	あいさつをされたら、相手の顔を見て、同じ言葉で返す。			
B				
C				

※評価：◎ ○ △

(2) 展開

時刻	学習活動	手だて及び指導上の留意点	備考
○○：○○	1 ○○○○○○○○○○○○	・○○○○○○○○○○○○○	準備物 など
	目標【児童生徒A】(児童生徒Aに示す目標を記入)		
	目標【児童生徒B】(児童生徒Bに示す目標を記入)		
	目標【児童生徒C】(児童生徒Cに示す目標を記入)		
○○：○○	2 ○○○○○○○○○○○○	・○○○○○○○○○○○○○	

(3) その他

・○○○○○○○○○○○○○○○

4 取組の実際



評価シートの改善

★単元（題材）終了後、評価（◎○△）と子どもの様子や授業のについての気づきを記入

★振りかえり指導方法でよかった点などを記入

グループ名 ()

H27. () 教科名等「(題材名/単元名)」

<全体目標に対する評価>

振り返り内容（評価項目）																				
(関心・意欲・態度)																				
(思考・判断・表現)																				
(技能)																				
(知識・理解)																				

※◎、○、△で評価をお願いします。

<次時の授業での改善点>

(評価から見てきた課題)

(改善のポイント)

4 取組の実際

P

育てたい資質・能力の整理

★教務と作成
児童生徒がどの段階にいるかチェック

ポスターの目標に、関連する力を明記

資質・能力		言語	思考	感情	身体
基礎的な学力	基礎的な知識・技能	基礎的な知識・技能の習得	基礎的な知識・技能の習得	基礎的な知識・技能の習得	基礎的な知識・技能の習得
	基礎的な思考力	基礎的な思考力の育成	基礎的な思考力の育成	基礎的な思考力の育成	基礎的な思考力の育成
	基礎的な感情力	基礎的な感情力の育成	基礎的な感情力の育成	基礎的な感情力の育成	基礎的な感情力の育成
	基礎的な身体力	基礎的な身体力の育成	基礎的な身体力の育成	基礎的な身体力の育成	基礎的な身体力の育成
応用的な学力	応用的な知識・技能	応用的な知識・技能の習得	応用的な知識・技能の習得	応用的な知識・技能の習得	応用的な知識・技能の習得
	応用的な思考力	応用的な思考力の育成	応用的な思考力の育成	応用的な思考力の育成	応用的な思考力の育成
	応用的な感情力	応用的な感情力の育成	応用的な感情力の育成	応用的な感情力の育成	応用的な感情力の育成
	応用的な身体力	応用的な身体力の育成	応用的な身体力の育成	応用的な身体力の育成	応用的な身体力の育成
発展的な学力	発展的な知識・技能	発展的な知識・技能の習得	発展的な知識・技能の習得	発展的な知識・技能の習得	発展的な知識・技能の習得
	発展的な思考力	発展的な思考力の育成	発展的な思考力の育成	発展的な思考力の育成	発展的な思考力の育成
	発展的な感情力	発展的な感情力の育成	発展的な感情力の育成	発展的な感情力の育成	発展的な感情力の育成
	発展的な身体力	発展的な身体力の育成	発展的な身体力の育成	発展的な身体力の育成	発展的な身体力の育成

(2) 個別の指導計画での目標(年間)

- ・50音図(清音、濁音、半濁音)を書く。
- ・語のまとまりを認識し、正しい単語を書く。
- ・文法を知り、簡単な文を作る。

(3) 本テーマ(課題)における目標

50音図の配列や正しい単語や文法を知り、より円滑に50音図を活用した自己発信や、文での自己発信をする(1-F-①)

大項目-小項目-段階

4 取組の実際

P

- ・ 指導案の改善
→「学びを今や将来の生活で実践する」視点での単元（題材）目標を立てた指導計画。4 観点を単元（題材）の指導計画の中で網羅する計画
評価基準を明記
- ・ 評価シートの改善
→単元（題材）終了後、観点別評価や学習の様子、授業改善を記入
- ・ 育てたい資質能力の整理
→教務部と整理

D

- ・ 年間指導計画、題材の指導計画、指導案（毎時の略案）をもとに授業実践

C

- ・ 授業後、評価（◎○△）と子どもの様子や変容についての気付きを記入
- ・ 月に1回の学部教科研、チーム教科研において、職員でお互いの授業評価

A

- ・ 毎時間の授業後の評価、単元（題材）終了後の評価をもとに、授業改善、指導・支援改善、指導計画の修正等。

4 取組の実際

P

高等部1年 家庭科 題材名「給食の献立を考えよう」

D

題材の目標

○栄養やカロリーを考えてバランスのよい食事を考えることができる。

○グループで話し合い、栄養のバランスを考慮した給食の献立を立てることができる。

★「学びを今や将来の生活で実践する」視点

この視点を意識して授業づくりを行ったことで、実際の生活につながる「給食の献立づくり」を行うことになった。



4 取組の実際

題材の計画

主な学習内容	関	思	技	知	時間
料理のカロリーについて知る。	○	○		○	1
栄養のバランスを考えよう。	○	○	○	○	1
給食の献立を考えよう。	○	○	○	○	3

生徒達の大好きな給食について扱うことで関心・意欲の高まりを図った。

栄養教諭と連携し、知識・理解の定着を図った。

話し合って作った献立はグループごとに発表



4 取組の実際

P

- ・ 指導案の改善
→「学びを今や将来の生活で実践する」視点での単元（題材）目標を立てた指導計画。4 観点を単元（題材）の指導計画の中で網羅する計画
評価基準を明記
- ・ 評価シートの改善
→単元（題材）終了後、観点別評価や学習の様子、授業改善を記入
- ・ 育てたい資質能力の整理
→教務部と整理

D

- ・ 年間指導計画、題材の指導計画、指導案（毎時の略案）をもとに授業実践

C

- ・ 授業後、評価（◎○△）と子どもの様子や変容についての気付きを記入
- ・ 月に1回の学部教科研、チーム教科研において、職員でお互いの授業評価

A

- ・ 毎時間の授業後の評価、単元（題材）終了後の評価をもとに、授業改善、指導・支援改善、指導計画の修正等。

4 取組の実際

C

学部教科研・チーム教科研

★月1回実施

1学期に学部教科研

2学期にチーム教科研

※小・中・高縦割りグループ

- ・国
- ・数、算
- ・職家、職・家、生活
- ・自立活動

★チーム教科研では、指導案や授業VTRを持ち寄り意見交換を実施



チーム教科研の意見交換

4 取組の実際



評価シートの活用

★題材終了後に4観点での評価
(◎○△)と生徒の様子や変容
を記述で記載。通知表に評価を
記入する際に活用

★振り返りとして教師の指導方
法などの見直しに活用
「生徒がお手本でキャッチボー
ルをする機会を作ると、盛り上
がりよく見ていた」など

中学部保健体育科 「ベースボール型運動」評価シート

実施日：平成28年11月 5日、6日
場 所：体育館
児童生徒：23人
授 業 者：体育担当

1 題材名
目指せ、ベースボール選手～ベースボールの特性に触れよう～

2 題材の目標

- ・運動に進んで取り組み、仲良く運動したり、それぞれの技に挑戦したりしてベースボール型運動の特性に触れることができるようにする。
- ・道具を安全に使い、ルールを守りながら安全に気をつけて活動することができる。

観点	目標
関心・意欲・態度	運動に積極的に取り組むことができる。
思考・判断・表現	ボールにタイミングを合わせるためにどうすればいいのか考え、実際にタイミングを合わせることができる。
技術	ボールにタイミングを合わせて、打ったり、捕ったりすることができる。
知識・理解	道具の安全な使い方を理解し、ルールなどを守って安全に活動することができる。

3 評価(中2)

名前	関	思	技	知	評価(記述)
山田 大	○	○	○	◎	キャッチボールなどで積極的に取り組むことができた。 ベースボール選手になるには練習が必要で、道具も 安全に使うことができた。
松本 太	◎	◎	○	◎	ボールにタイミングを合わせて、打ったり、捕ったり することができた。ボールの動きをよく観察していた。
福田 怜	○	○	△	△	投げたボールをキャッチしたり、打ったボールを捕ら えたりすることができた。ボールの動きをよく観察して いることができた。
					(欠席)
	◎	○	○	○	ベースボール選手になるには練習が必要で、道具も 安全に使うことができた。ボールの動きをよく観察して いることができた。

◎：十分達成できた ○：ほぼ達成できた △：達成できなかった

4 授業の振り返り(授業を行って良かった点、改善点)

- ・キャッチボールなどで練習が楽しく、みんなよく頑張った。
- ・ベースボールの動きやボールの投げ方など、実際に体験することができた。

4 取組の実際

P

- ・ 指導案の改善
→「学びを今や将来の生活で実践する」視点での単元（題材）目標を立てた指導計画。4 観点を単元（題材）の指導計画の中で網羅する計画
評価基準を明記
- ・ 評価シートの改善
→単元（題材）終了後、観点別評価や学習の様子、授業改善を記入
- ・ 育てたい資質能力の整理
→教務部と整理

D

- ・ 年間指導計画、題材の指導計画、指導案（毎時の略案）をもとに授業実践

C

- ・ 授業後、評価（◎○△）と子どもの様子や変容についての気付きを記入
- ・ 月に1回の学部教科研、チーム教科研において、職員でお互いの授業評価

A

- ・ 毎時間の授業後の評価、単元（題材）終了後の評価をもとに、授業改善、指導・支援改善、指導計画の修正等。



4 取組の実際

A

中学部トライB 国語科

5月「くじらぐも」

11月「物語を読もう～ずうっと、ずうっと大好きだよ」

1年1人、2年4人、3年3人の
異学年グループ

関	思	技	知	記述評価
◎	△	△	○	

- ▲ 音読の際に動きを止めてしまう。
- ▲ 意思表示が苦手な生徒で、分かっているのかわかが判断しにくい。

●担当者間の共通理解ができた。

- ・ T1が記入した評価シートを回覧しT2、T3が加筆した。

●より生徒に合った題材の選定ができた。

- ・ 主人公の心情に迫る内容で、生徒が主人公への手紙を書くことができた。

関	思	技	知	記述評価
◎	○	△	○	

●個に対する支援の工夫につながった。

- ・ 音読の時にマンツーマンで支援し、手で文字を追うように促すと、自分で手を動かすことができた。
- ・ 文字（手紙）を書いて伝えることができた。

5 成果と課題

(1) 指導と評価の一体化 ①指導案の改善について

■評価の4観点を単元(題材)全体で適切に設定し、指導計画を立案したこと

- 単元(題材)を構成する指導内容を設定しやすくなった。
- 単元(題材)において指導内容の適切な配置(単元計画)がしやすくなった。
- ▲関心・意欲・態度の評価基準設定の難しさと評価の妥当性(いつ・どのように)
- ▲「知識・理解」と「技能」が似通った内容になることもあった。

■略案(本時)に評価基準(B基準)を設けたこと

- 「何を、どこまで、どのようにできる」ということを具体化でき、評価がしやすくなった。
- ▲実態幅があるグループにおいては、個別に評価基準を設ける必要性

■「学びを今や将来の生活で実践する目標」を設けたこと

- 単元(題材)での学びがどのように生かされるかをふまえた指導計画ができた。
- ▲実践する力が年間をとおして、どのように身に付いたのか見えにくい

5 成果と課題

(1) 指導と評価の一体化 ②評価シートの改善について

■ 題材終了後に4観点での評価(◎○△)と児童生徒の様子や変容を記述で記載したこと

- 4観点で評価したことにより、より明確に評価できた。
- 評価が低い観点から指導内容や指導方法の工夫について検討し、その後の単元(題材)の指導に活かすことができた。
- ▲授業者にとどまらず、担任やチーム全体で共有していく必要性。
- ▲評価シートを子どもの支援や授業改善に活かすためのサイクルを確立すること。

(2) 育てたい資質・能力の明確化

■ 教務部との協働により作成

- 育てたい資質・能力についての検討を重ね、整理した。(教務部との協働で行った)
- ▲日々の授業づくりと資質・能力の育成をどのように捉えるか明示する必要性
- ▲事例研究においてのみ、どのように育てたい資質・能力につながるか示した。

6 次年度に向けて

評価の4観点に基づく授業づくり・授業改善の基盤



実態に基づき、確かな学びが見える指導と評価

- ・毎時の授業による学びや変容を蓄積(学びの履歴)
- ・実態把握ツールの活用
- ・的確な実態把握→目標設定(教科別の指導及び自立活動)
- ・4観点から3観点へ(次期学習指導要領に基づき)

資質・能力の育成につながる授業づくり

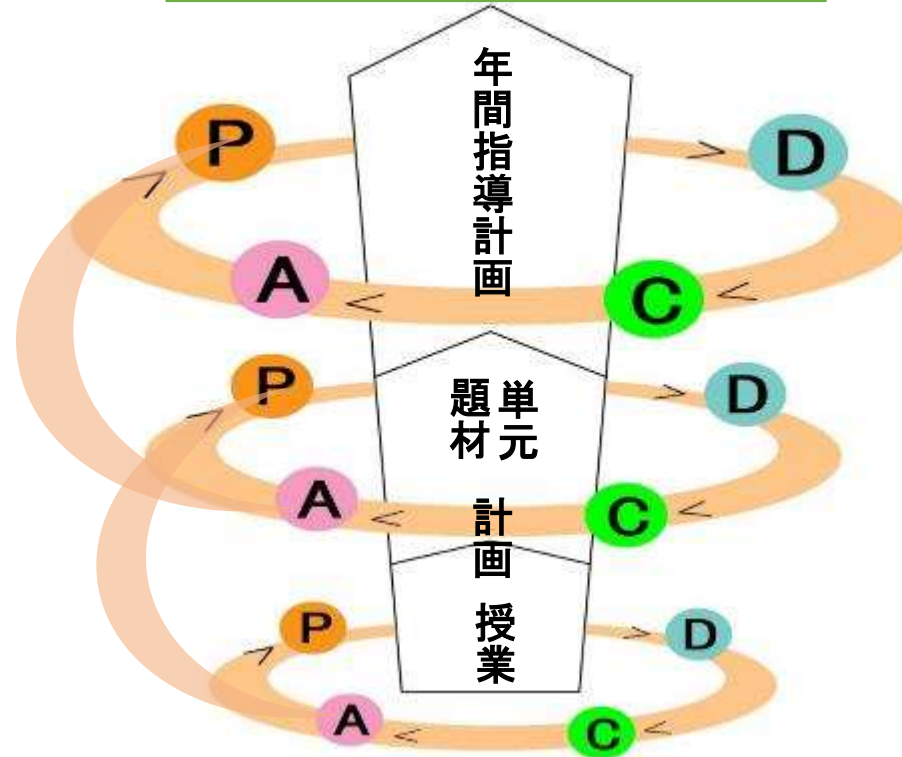
- ・育てたい資質・能力をふまえた「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成
- ・学びの積み重ねがどのように資質・能力の育成につながるか

6 次年度に向けて

学校教育目標

育てたい資質・能力

教育課程の改善



* この地域で自立し社会参加しながら
生きる子どもの育成を！

* 学習指導要領に基づいた指導内容
* 指導と評価の更なる一体化

* 一人一人の学びの履歴のうえに
確かな学びを積み重ねる

学びの履歴

ご清聴ありがとうございました。